

## 入 選

私たちと水のこれから

開智望中等教育学校

二年 鴻 巢 琳 央

地球は水の惑星と言われている。だが地球上にある水は約九十八%が海水で、淡水は約二%、その大部分は北極や南極の氷山などで占めている。そのため陸上生物が利用できる水は全体の〇・〇一%にも満たない。現在、世界人口の四十%以上にあたる三十六億人が水不足に悩まされていると言われていて、水不足の問題は今後も上昇すると予測されている。二〇五〇年には世界人口は約九十七億三〇〇〇万人になると予測されていて、そのうちの約半数の人が水不足の影響を受けると言われている。

水不足は、人々の生活に様々な影響を及ぼす深刻な問題だ。不衛生な水しか得られないために毎日約四九〇〇人、年間でおよそ一八〇万人の子供たちが

亡くなっている。飲み水の問題だけでなく、サハラなどの水不足の地域では、干ばつや地下水の減少、湖沼が小さくなるなど、食糧を作るための農業用水でさえ十分に得られなくなっている。そのため世界の穀物生産の約半分に影響し、水ストレスによるリスクを負うことになる。さらに砂漠化の進行を早めることになり、約百カ国、およそ十億人の生計を脅かすとも考えられている。そもそもなぜこのような水不足がおきているのか。気になって調べてみた。その要因には人口増加や地球温暖化が引き起こす気候変動が水利用を非効率にしていること、人間によって水源が破壊、汚染されていることが挙げられていた。その他にも、アメリカやEU、日本などの先進国の水の大量消費が原因になっていた。近年では、インドなどの発展途上国が近代化したことも原因に含まれている。さらに大きな問題として、輸入に頼っている日本は、その生産に必要な水を間接的に消費している。日本の輸入品のために使われている仮想水は約八百億トンになり、日本の水使用量全体とほぼ同じ量の水を海外で消費していることになる。

例えば、輸入された米、牛肉で作られた一杯の牛丼を食べることは、海外で使われた数トンの水を使用していることになる。私たちが暮らしている日本は世界中から水をかき集め、私たちの普通の生活を送るために多くの途上国の生活を破壊している。

こんな世界を変えるために私たちに出来ることはなんだろうか。私はまず一人一人が水の使い方を見直す必要があると思う。毎日家庭で使う水も工夫すれば節水できる。例えばトイレでは大小の洗浄をきちんと使い分けることで一回あたり最大二L、歯磨きをするときにコップで口をゆすぐと一回あたり約五・四L、吐水量を減らして使えば一分あたり三Lの節水になる。他にも食器をため洗いする、シャワーをこまめに止めて使う、お湯はりの量を少なくする、お風呂の水を再利用するなど。ここに書いた以外にも節水方法はたくさんあるが、これを毎日続けることで家族四人あたり約十七万四〇〇〇Lの水を節水していることになる。

私たちが生きていく上で欠かすことのできない水。だがそんな水も無限にはない。無限では無いから美

しい。だからこそ限りある水の使い方を見直し、水の危機について理解し、少しずつでもいいから水を節水することで、私たち人間やその他の生き物も含め、一つでも多くの命を守ることができると私は思う。